

## 令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月24日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人ひとりの個性・可能性の開発と伸長が図れる教育を実践する。</li> <li>○必要な社会実践力を具体化し、それを身につけさせる。</li> <li>○学ぶ意欲、学ぶ楽しさを意識した授業改善に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科において一人一台端末を活用した授業のさらなる充実を図ることで思考力・判断力・表現力の伸長を図る。</li> <li>・RT-21ステップからのジャンプへの繋がりからより生徒同士の協働を図れる教材を開発する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノートを活用し、生徒の双方向の学習活動を広げることで授業の充実につなげる。</li> <li>・毎回行う確認テストや探究活動をとおして次の教材作成に繋げていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートを通じ、わかりやすい授業が評価を高めることができたか。</li> <li>・学習活動の中で生徒の理解度を把握できたら。振り返りの結果を教材開発に生かすことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的にロイロノートを活用できるよう教員向けの研修を行い、授業の充実を目的として導入を決定した。ICT活用の幅を広げることができた。</li> <li>・RT-21では、生徒の理解度を見ながら教材の開発を行い、RT-21ジャンプでは発表や協議を取り入れることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I C Tを使用すること自体が目的とならないよう、また生徒が機械に操作しないようしていくことが必要である。また、少人数学習は今後も是非続けてほしい。</li> <li>・RT-21ジャンプは選択者が少なかったとのことであるが、3人もいたという見方もできる。空振りでもスイングがよければよいと思うのでじっくり進めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノートを活用した双方向型授業の充実を目指した。アンケートからは設問に対し、良好な回答が90%以上を示すなど、成果をあげた。</li> <li>・少人数学習では生徒の理解度に寄り添った授業を行うことで、苦手意識を克服できたと考える。</li> <li>・RT-21ジャンプにおいても選択者全員が授業の中で身に付いた、できるようになったと実感できたと回答している。</li> <li>・選択者を増やすしていくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンの利用ではなくChromebookの活用を増やしていく。</li> <li>・I C Tの活用が目的となるよう取組を検証し、全職員に向けI C T活用例の共有など、研修等を充実していく。</li> <li>・進路との関係も含め、選択者を増やすようPRしていく。</li> </ul>	
2 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○組織的な支援体制により、生徒一人ひとりが落ち着いて学習に取り組める環境を整える。</li> <li>○生徒を支援するという視点を持って、生徒指導を進め、学習・生活環境をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な生徒を見極め、悩みを抱えている生徒を取り残すことがないよう努める。</li> <li>・校内外において、集団生活を通じて秩序を守り、基本的な生活習慣を確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かながわ子どもサポートドック等を活用し、緊急性の高い生徒から優先的にSCやSSWによるプッシュ型面談を実施する。</li> <li>・一斉指導や登下校指導等において、ルールやマナーを理解させ、また遵守させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かながわ子どもサポートドックから表面化しにくい困難を発見できただか。</li> <li>・学校全体で共通認識を持つて指導できたか。また、登下校の苦情件数は減ったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かながわ子どもサポートドックや学校生活アンケートを通して、悩みや問題を抱えていると思われる生徒をより多く発見してきた。</li> <li>・警察とも連携して登下校指導をできた。苦情件数は昨年度と同等の数であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施方法に関しては今年度と同じ要領で来年度も実施する。気になる生徒がいた場合は丁寧に面談を行い、必要に応じてSCやSSWによるプッシュ型面談に繋げるよう全職員で共通認識をもって対応する。</li> <li>・引き続き、警察と連携して指導するとともに、HRや全校集会の場で注意喚起を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートドックにかかる生徒が相談できる環境のさらなる充実を進めてほしい。</li> <li>・サポートドックの要対応生徒と進路変更生徒の関連を調べてほしい。</li> <li>・授業料無償化に伴い、中学生が私立高校に流れる可能性がある。そのためには地域とつながる必要がある。登下校指導などを充実させるべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートドックで1回目より2回目では全学年で要対応生徒が減った。</li> <li>・2回目の要対応生徒は2回連続であり、その9割が1年生であった。</li> <li>・苦情の件数は例年並みであった。以前と比べると生徒のマナーはよくなったとのご意見もあるが、登下校中の内容が多く、8割が1年生であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要対応の生徒は学業への不安や人間関係のストレス、家庭でのトラブルが要因であると考えられるため、サポートドック以外でも各担任がこまめに面談等を実施し、適切な支援を続けていく。</li> <li>・登下校のマナー向上については引き続き安全登下校指導で改善を図る。</li> <li>・1年生の規範意識が低く、人間関係構築に課題があったと考えられるため、観察を通じ、職員間の情報共有を進めることでトラブルの未然防止に努める。</li> </ul>
3 進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自立した個人として自己のキャリア意識を高め、社会と関わり貢献できる生徒を育成する。</li> <li>○進路体験活動及び進路フェアの充実を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部機関と連携して、進路行事だけでなく、授業にも外部資源を活用する。</li> <li>・進路体験活動や進路フェアでは本人の適性や希望を尊重し、参加プログラムを自主的に選ばせるようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携の大規模な総合的な探究の時間で、入試対策セミナーや探究活動を実施する。</li> <li>・進路体験活動のオープンキャンパス希望者には事前に適性診断を行わせ、自分に合った学校を見つけられるよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路への意識を高めるような進路適性検査やガイダンスが実施できたか。</li> <li>・進路に関する授業や進路行事を行って、生徒の進路への意識が高まったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3学年の「総合的な探究の時間」で桜美林大学の「ディスカバ」を活用し、生徒に各自テーマを設定させ探究活動を行わせるなど、外部機関との連携を進めた。</li> <li>・2学年の進路体験活動では、事前にリクルートの適性検査を行わせ、プログラムの選択に役立つようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3学年だけではなく、他学年でも利用できそうなプログラムがあるので、導入を検討したい。</li> <li>・2学年のインターンシップでは、受入れ先企業から様々なご指摘をいただいた。事前学習で時刻を守ることや身だしなみなど企業が重視する点を生徒にさらに指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの会社ですっと勤めることができなくなっている。今までとは違う流れになってきている。このような時代を乗り切れる知識を身に付けてもらいたい。</li> <li>・進路に不安を持つ生徒が多い。会社も大学も多様化しているため、その情報を生徒に適切に周知し、ミスマッチを防いでもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年、今年度と一般受験している生徒も出るなど、大学進学が増えている。</li> <li>・一方で進路を決められない生徒も増えてきている。</li> <li>・就職しても4月で辞めてしまう生徒がいた。</li> <li>・インターンシップ等では生徒はしっかりと取り組んでいた。しかし企業と生徒の認識のずれが大きかった。どのように学校として指導していくかが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桜美林大学と連携した探究活動や、学校運営協議会委員による金融リテラシー講座など生徒には好評であったので、今後も外部機関を活用し、進路支援を充実させていく。</li> <li>・事前指導等を通じ、充実したインターンシップが実施できるようにしていく。</li> </ul>

4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者や地域との協働による学校づくりを推進し、人と社会と未来につながる開かれた学校づくりを推進する。</li> <li>○中学生及びその保護者に本校の特色・情報等を効果的に発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事に生徒ボランティアの参加を促すとともに学校行事を中心として、地域と一緒にPTAや近隣施設等との連携する機会を増やす。</li> <li>・HP、X（旧ツイッター）などで本校の取組状況を発信し、学校説明会や個別相談会の充実を図りながら教育活動を理解してもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒ボランティアの参加、地域貢献デーやクリーンチャレンジ、文化祭等を通じ、PTAや近隣施設等との連携する機会を増やす。</li> <li>・全公立展を手始めに学校説明会や個別相談会等の参加者へのアンケートによる良いという評価の割合を高めることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等の生徒の参加者数の増加率やアンケートの実施結果により近隣の評価を高めることができたか。</li> <li>・学校説明会、個別相談会等の参加者へのアンケートによる良いという評価はともに9割近かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事後のPTAや近隣の評価は好評であった。行事への参加率については、他の行事との日程の関係で低い行事もあった。</li> <li>・学校説明会、個別相談会の評価は概ね好評で、良いという評価はともに9割近かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携を今年度並みに維持しつつ、より効果的に行なうことができる実施形態を検討していく。また、他の行事との日程を考慮して行事を設定していくことが必要である。</li> <li>・中学校への広報を周知するため、引き続き全職員の協力を得たうえで中学校訪問を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学してくる生徒は目標が明確でないように感じる。広報活動で目標を持たせるきっかけをつくってほしい。</li> <li>・クリエイティブスクールについて、中学の先生の理解が低いように思える。引き続き積極的にPRしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のお祭りなどに多くのボランティアが参加してくれた。とても感謝している。今後ともお願ひしたい。</li> <li>・全公立展や公私合同説明会等を通じ、広報活動について一定の成果をあげることができ、R7年度入学者選抜においても入試倍率を出すことができた。</li> <li>・公式Xで普段の学校の姿を50回以上投稿し、フォロワー数も1074に達した。</li> <li>・全職員で中学校訪問を実施し、広報活動の充実が図れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリーンチャレンジ等、委員会の生徒も積極的に参加できるよう平日に開催することも検討する。</li> <li>・地域からのオファーも来るようになったので対応する生徒会組織を作った。今後、より充実した活動を行ない、地域の期待に応えていく。</li> <li>・HPでは現在掲載している内容の更新を検討している。</li> </ul>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すべての職員が学校運営の主体としての意識を共有し、一体となって教育活動に取り組む組織づくりを行う。</li> <li>○職員の同僚性を高め事故・不祥事ゼロを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に職員が備蓄品を使えるように備蓄倉庫を整備する。</li> <li>・教職員の常に相談できる雰囲気づくりを進め、相互理解を深めることで事故、不祥事を防ぐ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備蓄品の管理並びに、非常に取り出しやすく使いやすいように備蓄倉庫を整備する。</li> <li>・衛生委員会による職場環境の改善、不祥事防止研修会の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備蓄品の管理、備蓄倉庫の整備はできただか。</li> <li>・職場環境はストレスチェックについて衛生委員会等を通じ長時間労働者へのアプローチを実施した。</li> <li>・管理職から毎週金曜日に働き方改革、不祥事防止についての声掛けを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒用の備蓄品を学年ごとに整理し、非常時でも分かるようにした。それ以外の防災用品も保管場所を確保し、移動することができた。</li> <li>・ストレスチェックは昨年度より健康リスクが上がったので、今後も衛生委員会等を通じ、職場改善を進めていく。</li> <li>・不祥事防止職員啓発資料アンケートの内容でほとんどの内容で正解しており、意識向上を図れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度が変わり、生徒用物品の入れ替わりがあつても整頓された環境を維持できるよう引継ぎを行う。</li> <li>・体験型の防災訓練の実施など非常に良い取組を実施している。さらに発展させて実施してもらいたい。</li> <li>・マンホールトイレなど冬場は設置等が大変ということを聞いた。市と連携し検討してほしい。</li> <li>・教員が仕事のやりがいを感じることが不祥事防止の基本である。働き方とつなげて取り組んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒用、職員用とともに防災備蓄品を4月下旬には準備や整理ができた。また、総括教諭に対してもその場所や内容を確認できた。</li> <li>・体験型防災訓練を実施し、煙体験、非常食の喫食訓練等、アンケートで好評であった。</li> <li>・不祥事防止研修会や職員会議時に校長からの伝達により、不祥事防止についての意識向上について成果をあげた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練を通じて今後も通報訓練等を未経験の職員に体験させるなど、より実践的な内容に改善していく。</li> <li>・働き方改革と合わせて、風通しのよさと同僚性の向上に率先して取り組み、事故・不祥事のない職場をつくる。</li> </ul>	